夢じゃなければ。

観月　あき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
夢じゃなければ。

【Ｎコード】
Ｎ６６９８Ｕ

【作者名】
観月　あき

【あらすじ】
恋愛短篇、しかも学校ものです。
以前別のサイトに載せたものです。
すこし文章がおかしな気もしますが、読んでみてください。

『ねえカズサ、森君がカズサのこと、好きなタイプって言ってたよ』

クラスメイトの麻理にそう言われたのは、昨日の帰り道でだった。

『よかったじゃん、告白しちゃえば？』

さんざんからかわれて、さんざん顔を赤くした。こうして、今思い出すだけでも、はずかしくなる。っていうか、なに一人で、恥ずかしがったりしているんだろう。本人から言われたわけでもないのに。

実は、まさに今、隣にいたりするのだ。

クラスメイトの森君。四月の自己紹介の時から、少し、いや、少しどころでなく、気になっている。

駅からの通学路は、すこし遅いこの時間でも、生徒がちらほらいる。そこで森君を見かけることは、今までにも何回かあった。それでも。

・・・向こうから話しかけてきてくれたのは、初めてだったけど。

「あのさ、春山」

森君がそう切り出したのは、変なところで会話が途切れて、ちょっとした時だった。

「変に思わないでほしいんだけど、・・・・あの噂、聞いた？」

「噂？」

聞き返すと、森君はまるで、何か失敗したとでも言いたそうな顔になった。

「噂って何？」

「いや、だから・・・・・・その、さ」

なんだか歯切れが悪い。森君をのぞきこむように頭を傾けたら、森君はしぶしぶといったように言う。

「・・・俺が、春山のこと、好きなタイプだっていう、噂」

「・・・・・・・・・」

反応に困って、森君の顔を見られなくなった。絶対、顔、赤くなってる自信がある。

「あのさ、それ嘘だから」

森君は言葉を続けた。

「好きなタイプじゃなくて、好きだから」

・・・・・・それって。

それって？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6698u/

夢じゃなければ。

2011年10月9日10時26分発行